

# 高陽町商工会設立 50 周年 記念式典・祝賀会 特集号

平成 24 年 1 月 19 日 (木)  
於：リーガロイヤルホテル  
式典：17:30～  
祝賀会：18:30～

## 高陽町商工会設立五十周年のご挨拶

高陽町商工会会長 江川 寛

会員の皆様には日頃より高陽町商工会の事業にご支援、御協力賜り厚く御礼申し上げます。おかげさまで今年度創立五十周年を迎えることが出来、誠に感無量なものがございます。昭和三十五年に小規模事業者の育成を目的として商工会法が制定され、白木町商工会が昭和三十五年十二月十四日、高陽町商工会が三十六年五月二十九日にそれぞれ県知事の認可があり、白木町二五七名、高陽町二四三名でスタートいたしました。昭和四十一年女性部、昭和四十五年青年部が設立され、全体制がとられました。

昭和四十八年三月広島市と合併し、ベッドタウンとして人口が急激に、増加いたしました。昭和五十五年政令都市になり、高陽町の地名が消滅、十一月新旧住民のふれあい、地名を後世に伝える目的で、第一回高陽まつりが、青年部主催で開催されました。平成三年二月に、三代目増井会長のもとで念願の商工会館が竣工、平成十年、十六年と二回に渡り土地を取得し、大きく飛躍する礎となりました。

平成二十一年四月一日、白木町商工会と、合併し新生高陽町商工会が誕生いたしました。また、平成二十一年度貯蓄共済推進キャンペーンで、広島県一位、二十二年度連続一位となり、女性部の活躍のおかげで念願の日本一となる事ができました。五十年の歴史を振り返って、改めて、歴代の会長、役員、先輩会員、職員の皆様のご努力と、関係機関のご支援、ご指導の賜物と心から、敬意と感謝を申し上げます。

我が国経済は二〇〇八年九月のリーマンショック以来、我々小規模事業者を取り巻く、環境は大変厳しい状況が、つづいております。特に、高陽、白木地区に於いては、人口の減少、少子高齢化、空き店舗の増加、後継者不足と多くの問題をかかえております。

創立に尽力された、先輩の情熱を、思い起こし、これまで以上に小規模事業者の経営改善や、地域問題に取り組み、地域経済の健全な発展のために、皆様と共に頑張りたいと思っております。

何卒今後とも絶大なる、ご指導と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。会員の皆様のご健勝と、ご繁栄を祈念して、ご挨拶いたします。



山陽高校の和太鼓部「弾」



本日は一段と“お美しい”！  
商工会女性部の受付



高陽町商工会 50 周年記念にぴったりの  
“体に響くド迫力の太鼓”有難うございました！



白木町「弦心会」の皆様による  
“心に染み渡る”津軽三味線



リーガロイヤルホテル 4 階ロイヤルホール  
会場右側出席者風景



Oh!Set 合唱団によるコンサート  
最後に全員で歌った「三百六十五歩のマーチ  
はいい思い出になりました」



会場左側出席者風景



威勢のいい商工会青年部による中締の  
「万歳三唱」きれいに決まっています！

限られた紙面の都合上掲載されなかった祝賀会のスナップ写真(約300枚余)を商工会事務局に準備しております。  
(商工会だより第74号お知らせをご覧ください)



## 祝 辞

広島県知事 湯崎英彦

高陽町商工会設立五十周年記念式典がこのように盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

高陽町商工会におかれましては、昭和三十六年に設立されて以来、地域に根ざした、きめ細かな相談・指導などの取組みを通じて、地域事業者の振興や地域活性化に多大なる貢献をいただいております。

江川会長をはじめ、歴代会長並びに関係者の皆様の御尽力に、心から感謝申し上げます。

また、先ほど、栄えある表彰を受けられました皆様には、永年にわたる御功績に対し、深く敬意を表しますとともに、本日の受賞を心からお祝い申し上げます。

さて、県内景気は、緩やかな回復がみられたものの、海外経済の減速や円高の影響などから、先行き不透明な状況にあり、とりわけ中小企業を取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況が続いています。

県では、引き続き緊急経済・雇用対策を実施するほか、新たな活力を生み出すために、あらゆる分野の力の源泉となる「人づくり」と、雇用や所得を生み出す「新たな経済成長」を重点分野に置き、県全体の成長エンジンを最大限に加速させてまいります。

どうか、高陽町商工会の皆様におかれましては、設立五十周年を契機に、産業振興や地域活性化に一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、高陽町商工会のさらなる御発展と皆様の御健勝を祈念しまして、お祝いの言葉と致します。

平成二十四年一月一九日

## 祝 辞

広島市長 松井一實

この度、高陽町商工会が設立五十周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。また、日頃から本市政の推進に格別の御理解と御協力を頂いており、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、高陽町商工会におかれましては、昭和三十六年（一九六一年）の設立以来、経営改善指導などに取り組まれるとともに、地域の活性化にも資する「高陽まつり」の開催など地域に根ざした幅広い活動に努めていただいております。歴代の会長を始め役員、会員の皆様方の御努力に対し深く敬意を表します。

また、先ほど表彰を受けられました皆様には、本日の受賞を心からお祝い申し上げます。

私は今年、市長として二年目を迎えますが、昨年末に市政推進に当たった基本的な考え方、コンセプトを発表いたしました。私が常々お話しさせていただいている広島を世界に誇れる「まち」にしたいとの思いを、「活力にあふれにぎわいのあるまちづくり」、また、市民一人一人が仕事と生活が調和した生活を送ることが出来る「ワークライフバランスのまち」そして、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた「平和への思いを共有するまち」、この三つの要素を基本として市政運営し、「世界中の人々が一度訪れてみたいまち」、「訪れた方がまた来てみたい、住んでみたい」と思うまちにしたいと考えています。

中でも活力にあふれにぎわいのあるまちへの取組として経済活性化が不可欠ですので、皆様方と共に、元気のある広島市をつくってまいりたいと思っております。

皆様方には、この度の設立五十周年を契機として、広島経済の力強い発展と活力ある創造に、より一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、高陽町商工会のますますの御発展と本日お集まりの皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 高陽町商工会 設立五十周年 記念式典 祝辞

広島県商工会連合会 会長 植田賢治

本日ここに、「高陽町商工会設立五十周年記念式典」が、かくも盛大に開催されますことに、一言、お祝いを申し上げます。

高陽町商工会は、昭和三十六年五月に設立、その後、平成二十一年四月に白木町商工会と合併され、現在の高陽町商工会となりました。

設立から半世紀にわたり、一貫して、地域中小企業の発展と地域経済の活性化に大きな役割を果たされ、この間の歴代会長さんを始め、多くの役員の方々の献身的なご尽力に対し、深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

また、先ほど、表彰を受けられた皆様、誠におめでとうございます。この度の表彰は、ひとえに、皆様の長年にわたる功績が評価されたものであり、心より敬意と感謝の意を表するものであります。

今後とも健康に留意され、なお一層のご活躍をいただきますよう、祈念申し上げます。

さて、我が国経済は一部には緩やかな回復が続いているとの見方がありますが、歴史的とも言える円高や欧州の信用不安などに加え、原発事故が引き起こした放射能汚染が、震災からの力強い復興の妨げになるなど、先行きは極めて不透明であり、特に、地方の中小・小規模事業者を取り巻く経営環境はかつてないほど厳しいものとなっています。

とりわけ、過疎化・高齢化に悩む、いわゆる中山間地域の疲弊は著しく、日常生活の基盤ともいべきコミュニティの維持すら困難になる地域も現れています。地域に密着した



小規模・零細企業の役割は、地域社会や住民生活にとって不可欠なものであり、その必要性は、今回の大震災の被災地においても明らかとなっています。

言い換えれば、我が国企業全体の九割近くを占める小規模事業者の存在こそが、我が国経済の活力の根幹であり、地域で必死に頑張っている小規模事業者が元気になることが、即ち地域活性化に直結していると言っても過言ではありません。

思い起こせば、一昨年の十月五日、商工会法施行五十周年記念広島県大会において「元気な経営、笑顔のまちへ、商工会は全力で進みます」を大会スローガンに掲げましたが、これは、地域で唯一の総合経済団体である商工会が、『あなたに、とことん』をキャッチフレーズに、会員の皆様への巡回訪問を通じて、更なる会員サービスの向上に努め、企業を元気にし、地域住民の笑顔が溢れるまちづくりを推進することにより、地域コミュニティを守り、防犯・防災活動、高齢者福祉、伝統文化の継承も含めた、地域を支える活動を推進していく決意の表れでありました。

幸いなことに、高陽町商工会におかれましては、江川会長さんを始め役員の方々のご尽力により、きめ細かな会員サービスに努められ、地域コミュニティの中核としての役割を十二分に担ってこられました。

こうした成果により、当地域における商工会の存在意義は、今後ますます重要性を増すものと確信いたしておりますし、今後の活動に大いに期待をいたすところであります。

最後に、貴商工会の今後ますますの発展と、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしますとともに、本日ご臨席をいただきましたご来賓の皆様には、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます、お祝いのことばといたします。

平成二十四年一月一九日

